



JIC インフォメーション

第 194 号 2018 年 1 月 10 日

年 4 回 1・4・7・10 月の 10 日発行

1 部 500 円

発行所: JIC 国際親善交流センター 発行責任者: 伏田昌義

<http://www.jic-web.co.jp>

東京オフィス: 〒160-0004 東京都新宿区四谷 2-14-8 YPC ビル 7F TEL: 03-3355-7294 jictokyo@jic-web.co.jp

大阪・ロシア留学デスク: 〒540-0032 大阪市中央区谷町 2-7-4 谷町スリースリースビル 7F TEL: 06-6944-2341

ロシア 伯ソ連 国 際 交 流 誌

はりねずみのジェーニャ



あけましておめでとうございます

本年も ^{ジェーアイシー} JIC をよろしくお願いします!!

С НОВЫМ 2018-ым Годом!!



こんにちは！ジェーアイシーです

ティグレ誌の特集記事より、JIC 東京スタッフの集合写真 (撮影: 竹内美保)

<2018 年 ロシア年、日本年>

日ロ新時代へ、人の交流拡大を……………伏田昌義…2P

《JIC スタッフより新年ごあいさつ》

テーマは「2018 年 これがやりたい！」……………3-15P

ソロヴェツキー諸島訪問(4) ～魅惑のクゾバ諸島

……………モロゾフ・デニス…16P

モスクワマラソンに参加して……………松本 拓也……………18P

冬のロシアは Облеиха (オブレィハ) のお茶で……………19P

JIC では、Jクラブ(JIC 友の会)会員を募集しています。
年 4 回の情報満載のインフォメーションをお届けします。

2018年 ロシア年、日本年！

日口新時代へ、人の交流拡大を！

2018 年は「ロシアにおける日本年」「日本におけるロシア年」です。これは 2016 年 12 月に来日したプーチン大統領と安倍首相との日口首脳会談で交わされた『覚書』によるもので、日口関係の一層の深化・発展をめざして「政治、経済、文化、教育・科学・青年・スポーツその他の分野」における大規模行事を含む各種の交流事業を行うことになっています。

ロシアでは、5 月 26 日にモスクワのボリショイ劇場で日本年の開幕行事が行われ、スプートニク紙によれば映画祭や演劇、和太鼓演奏、経済セミナー、見本市など日本に関わる数百のイベントが予定されているとのこと。

日本でも、6 月 12 日にサントリーホール（東京都港区）でロシア年&ロシア文化フェスティバルのオープニング・コンサート「ロシアナショナル管弦楽団」（ミハイル・プレトニョフ音楽監督）を皮切りに、さまざまな文化イベントが準備されています。

FIFA ワールドカップ・ロシア大会を機に 「遠いロシア」を「近いロシア」に！

今年最大の国際イベントといえば、FIFA ワールドカップ・ロシア大会です。6 月 14 日から 7 月 15 日まで、モスクワ、ペテルブルグはじめロシア国内 11 都市 12 会場でワールドカップが開催されます。12 月 1 日に一次リーグの組み合わせ抽選が行われ、日本は 6 月 19 日サランスク・対コロンビア戦、6 月 24 日エカテリンブルグ・対セネガル戦、6 月 28 日ヴォルゴグラード・対ポーランド戦を行うことが決まりました。すでに多くのサッカーファンが日本の試合を観戦すべく準備していることですが、JIC でもチケット入手者を対象に観戦ツアーを企画しています。

また、大阪ではロシア領事館と大阪日口協会、サッカー協会などが協力して、6 月 14 日の開幕戦（ロシア対サウジアラビア）のパブリック・ビューイングによる応援イベントも企画されています。

ロシア人にとって日本がより身近になり、訪日観光客が急増するきっかけになったのは 2002 年の日韓共同開催ワールドカップでした。今回の FIFA ロシア大会の観戦を機に、日本人にとってもロシアがより身近になり、訪日観光客が大幅に増えることを期待しています。遠い、冷たい、暗いといったネガティブなロシアのイメージは、ロシアに一度行けば必ず吹っ飛びます。何と言ってもロシアは日本に一番近い外国であり、素顔のロシア人はとても開放的で、親日家が多いの



です。

共同経済活動の一環として「北方 4 島クルーズ」を！

その意味で、昨年来続けられている北方 4 島での日口共同経済活動をめぐる交渉でも、観光交流が大きな課題となっています。すでに 1990 年代から「ビザなし交流」の枠組みで北方 4 島訪問が続けられてきましたが、これをより大規模な一般観光に拡大することができれば、日口両国民の相互理解は大きく進み、国境線画定交渉の環境もより整備されるに違いありません。実現するかどうかは政府間交渉の行方次第ですが、旅行業界では「北方 4 島クルーズ船観光」がいつでも実行できるように準備が始まっています。

ビザ緩和で訪日ロシア人は昨年 40%増！

JNTO 日本政府観光局の発表によれば、昨年 1～11 月の訪日外国人客数は 2616 万人と、2016 年の年間数（2404 万人）を超え、過去最高を記録しました。昨年 1 月からビザ要件が緩和された結果、ロシア人客数も絶対数はまだ少ないものの、対前年同期比で 41.8%（17 年 1～11 月で 71500 人）と大幅に増加しました。

日本を訪れるロシア人が増え、またロシアを訪れる日本人が増えて、人の往来が活発になればなるほど、お互いの違いと共通点がはっきりします。国際紛争を解決する手段として、戦争＝武力行使はもはや有効性を失っているわけですから、どんなに時間がかかっても、相互理解を深め、息の長い話し合いでお互いの共通点を拡大するしかないのです。そのような話し合いの環境を作る上で、人的交流の基盤を提供する旅行業・観光業の役割はますます重要となっています。

JIC は今年も、日口交流を支える「縁の下力持ち」として、頑張りたいと思います。本年もよろしくお願いいたします。

伏田 昌義（ジェーアイシー旅行センター代表取締役
／国際親善交流センター副会長）



JICスタッフより新年のご挨拶

「2018年、これがやりたい！」

謹賀新年！本年も JIC をよろしくお願い申し上げます。

※1 月号恒例のスタッフ新年あいさつ。今年のテーマは、「2018年、これがやりたい！」です。今年こそあれがやりたい、これがやりたい、…。中にはテーマと必ずしも関係なく、ちょっとした日常の思いを綴ったものもありますが、これも我が JIC スタッフの多様な個性の表われとご笑覧ください。
それではどうぞ、各スタッフの新年メッセージをお楽しみください。

ロシア電子ビザ開始&FIFA ワールドカップ開催 ロシアの新しい旅行スタイルを切り開く

杉浦 信也 (JIC 旅行センター)

当初は昨年1月より実施される予定だったウラジオストクの電子ビザ(※1)がようやく8月8日から開始されました。12月初旬の時点で3560名の外国人(うち日本国籍1295名)がこの制度を利用してウラジオストクからロシアに入国したそうです。

今年からはさらに電子ビザの適用範囲が拡大され、ユジノサハリンスクやペトロパブロフスクカムチャカなど、ロシア極東の国際路線が就航している都市はすべて電子ビザで入国できるようにする計画になっています。

また今年6月14日から7月15日まで、ロシア国内11都市でサッカー・ワールドカップ・ロシア大会が開催されます。観戦チケットを入手し、ファンID(※2)を取得した方は、ワールドカップ期間の前後10日間を含む大会全期間をビザ無しでロシアに入国し試合を観戦することが可能となります。

従来から待望されている日ロ間での相互ビザ免除の制度はなかなか実現されませんが、地域限定かつ期間限定ではありますが、電子ビザやファンIDの制度を利用すれば、限りなく自由旅行に近い形でロシア国内を旅することができます。是非このチャンスを使って、モスクワやサンクトペテルブルグだけではなくロシア国内の地方都市へも出かけてみてはいかがでしょうか。

JICでもチケット所持者に参加対象は限られますが、日本チームがコロンビアと戦う第1戦のサランスク、対セネガルの第2戦エカテリンブルへの観戦ツアーを準備中です。



ワールドカップ会場/カザン・アリーナ(2017年10月撮影)

ロシアの新しい旅行スタイルを切り開くため今年も頑張ります。

※1「ウラジオストク電子ビザ」

正式名所はウラジオストク自由港を訪問するための電子ビザ。ロシア入国の4日前までに下記のロシア外務省のWEBサイトで申請。電子ビザ発行日から30日以内有効。入国日を含め8日間以内の滞在が可能。ただし入国および出国はウラジオストク自由港内の指定された国境ポイント＝クネヴィッチ国際空港や海港・旅客ターミナルなどに限定。残念ながらウラジオストクから入国し、ハバロフスクやモスクワといった他の都市からの出国はできません。

ロシア外務省・電子ビザの関連サイト(日本語)；

http://electronic-visa.kdmid.ru/index_jp.html

申請サイト/ 日本語選択有り； <http://evisa.kdmid.ru>

※2「ファンID」

ワールドカップ・チケット所持者がWEB上で申請により取得。観戦入場にはID所持が義務付けられるとともにロシアへビザ無しで入国が可能となる。

<http://jp.rbth.com/lifestyle/79174-2018-worldcup-guide>

<http://www.fan-id.ru/>

日本の魅力をできるだけたくさん のロシア人に伝えたい！

モロゾフ デニス (JIC 東京)

あけましておめでとうございます。いよいよ 2018 年、日ロ相互年(日本におけるロシア年、ロシアにおける日本年)の幕が上がりましたね。巷では今年中に短期観光ビザの相互撤廃が囁かれていて、実現すればうんと近くなるロシアと日本。いいことなんです。とは言え旅行会社を素通りする人が増えるので、正直かなり複雑な気持ちです。旅行会社としての真価が問われる、かなりチャレンジングな年になるのかもしれませんが。

ロシアからの来日客が増えれば、自然に情報収集も大事になってきますね。日本に行きたいが、どの時期、どのぐらいの日程で、そして日本のどこを回ったらいいのか。SNS、ブログ、Instagram など様々なツールを通じて、将来の観光客は情報をかき集めることでしょう。その中で、テレビの役割もかなり大きくなります。

昨年秋、ハバロフスクのテレビ局「GUBERNIA TV」の撮影班が JNTO 日本政府観光局とわが JIC の協力で 2 週間に及ぶ観光地取材を行いました。私も事務所を離れ、みっちりアテンションを務めました。信州松本、上高地、飛騨高山、白川郷、金沢、大阪、高野山、奈良、神戸 & 有馬温泉・・・何度も訪れている場所ですが、改めてそのポテンシャルを痛感。テレビ取材のため、観光スポットだけでなく、様々な人にインタビューも行いました。お寺のお坊さん、酒蔵のご主人、登山客や街角の若者など、みんながみんな非常にフレンドリーで笑顔の絶えない、忘れられない 2 週間となりました。

「旅は道連れ、世は情け」とは、よく言ったものです。日本の素晴らしい景色だけでなく、旅先で人との交流があれば、旅の楽しさは百倍にも膨れ上がります。

昨年、GUBERNIA TV とともに作った旅番組「日本のパケーション」(ЯПОНСКИЕ КАНИКУЛЫ) がついにオンエアされました。非常に温かい、いいシリーズに仕上がっています。これから日本旅行を考えるロシア人にとって一つの指標に



飛騨高山の朝市(取材中です)

なってくれば、うれしい限りです。YouTube でいつでも検索できますので皆さんもお時間があるとき、是非一度見てください！

思い出から少しずつ

百瀬 智佳子 (JIC 東京)

新年おめでとうございます。今年もどうぞよろしくお願い致します。

さて先日某所で、自己紹介を兼ねて子供時代の思い出を何か話すべし、という機会がありました。子供の発表会などで昔の自分を思うことはありますが、「なんでも」とテーマなく思い浮かべるのは新鮮でした。

その時に真っ先に頭に浮かんだのは、枯葉だらけの山の風景です。

私の兄は病弱で長く療養所におり、小さな私も家族と電車で 2 時間ほどかけてよく会いに行きました。特急は山あいを縫って進みます。飛ぶように景色が流れていく車窓。線路近くの坂一面につもる枯葉や冬木立が、遠景や谷を挟みながら繰り返し現れます。

その時に強烈に思ったのです。ああ、あの場所に立ってみたい。窓のこちら側に閉じ込められた私は運ばれて行くしかないけれど、見えている場所はすべて本物。あのいい感じの木の下も、枯葉しかないあの場所も、そこら中が自分の足でも立つこと



山城の堀跡にムラムラ

が出来る場所のはず、と。どんな景色が見えるのだろう？

その思いは深く残り、大学生になり実家を出た途端に旅をするようになりました。道中ではただの雪原や林の一点目指して歩き続けるような不思議な時間も重ねたものです。雪の降りしきる仏ヶ浦を喜び歩いていたなら、おじさんに声をかけられなぜかご

飯をご馳走になったこともありましたが、今思えば世をはかなんで見えたのかもしれないと少し後悔しています。

芋づる式に思い出しつつ、近頃はあまりに真っ直ぐ歩いているな、少しずつまた不思議な時間を増やしていけたら良いなと思うこの頃です。

皆様も、ふらりと行ってみたいだけ、とりあえずあの広場に立ちたいだけ、など不思議な思いがロシアに芽生えた折には、いつでもご連絡ください。



廃墟探訪 in サハリン希望！

五十嵐 真夕 (JIC 東京)

明けましておめでとうございます。

今年やりたいこと…比較的実現できそうなところで、「サハリンで廃墟探訪」なんてどうでしょう。

昨年は2泊3日という短い日程でしたが、久しぶりにウラジオストクへ行くことができました。そしてなんと、ソ連時代の地下シェルターに入ってきたのです！「プレゼントは何がいい？」と聞かれ「廃墟の写真集！」と答えるくらいには廃墟が好きな私…地下のゾッとする雰囲気で大興奮でした(詳細は JIC ホームページ内の写真やブログをご覧ください)。

サハリンには行ったことがありませんが、廃墟がたくさんあるそうです。ホルムスクにある王子製紙の工場跡など、写真で見ただけでもたまりませんよね。単純にユジノサハリンスクでの街歩きもしてみたいし…行けるといいなあ、サハリン。

これだけではあまりにそっけないので、廃墟にまつわる思い出話をひとつ。

その昔、友人2人と地元にある廃旅館へ行きました。私以外の2人は既に何回か訪れたことがあり、初めて行くのは私だけでした。その廃旅館へ行く道はひとつしかないのですが、2人がしきりに「前に来た道と何か違う」と言うのです。昼間だったのです

が、山の中で薄暗かったこともあり、人並みに怖がりでもある私は急に怖くなってきました。

そうこうしているうちに、目の前に現れた廃旅館。はかなげな美しさはなく、おどろおどろしい佇まい…。「立入禁止」の看板と共に、頑丈そうな柵で入口が塞がれているのを見て、入れなくて良かった！と安心したことを覚えています。

他にすることもない場所なので、帰路につく私たち。途中、道の真ん中に、来る時にはなかった何かが落ちているのが見えました。それは丸められた赤いタオルのようなもの…毛糸で編んだような人形にも見えたが、車に乗っていたこともあり、3人で「怖いから、振り返るのはやめておこう」と話し、そのまま通り過ぎました。

おかしいんですね。私たちは車から降りていないし、一本道で、誰もすれ違っていないのに。

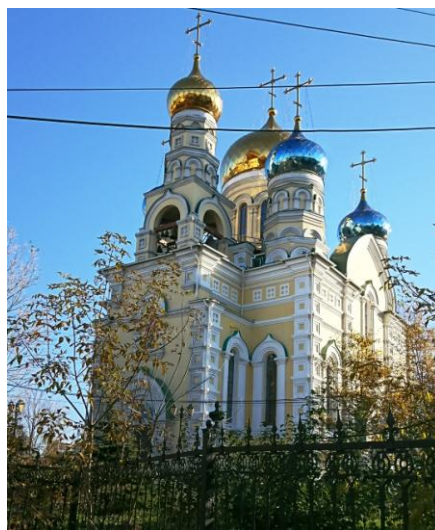
そんなこんなで本年もどうぞよろしくお願いいたします★

パクロフスカヤ教会の鐘

小原 浩子 (JIC 大阪)

昨年は「夢」、今年は「やりたいこと」と、社長から課題が出されるたびに本当に困っています。夢ややりたいことを高らかに宣言するのは、希望に満ちた人たちにとっては実現への第一歩になるのですが、私のような者には果たしてどうなのでしょう？だから昨年の夢同様、やりたいことも秘密にしておきます。

2017 年は 14 年ぶりにウラジオストクに行きました。日本旅行業協会が企画した視察旅行で、参加者は大手旅行会社の企画



担当のみなさんやロシア専門旅行社の第一線で手配をされている方ばかり。私自身は 14 年前に出張したのを最後にウラジオからは遠ざかっており、久しぶりのウラジオストク旅行でした。参加者のみなさんと共にバスや徒歩で市内の

観光スポットやホテルを視察し、夜は現地旅行会社とのミーティングと、毎日予定が满满とあり、昔覚えていた通りや街角の激変ぶりに戸惑いつつ、新しいウラジオストクの観光スポットを案内できるよう写真を撮ったり説明を聞いたり充実した時間を過ごすことができました。

この旅行で時間があれば個人的に行きたかったのが、昔暮らしていたウラジオストク大学の大学寮でした。ガイドさんに聞くと宿泊しているホテルから徒歩で行けるとのことだったので、最終日、出発までの時間を利用してホテルから大学寮へ歩き始めました。気温はマイナス 1 度、空は青く晴れ渡りウラジオストクの典型的な冬の気候。枯葉の舞う幹線道路をひたすら歩き、ポクロフスカヤ教会のある公園の横の道を通ってかつて自分が暮らしていた場所へ。少し迷いはしたものの、留学時代に見慣れた景色が現れました。風は強く、深く青く白波のたつ海と、抜けるような青空と 9 階建ての白い大学寮の建物、そしてコンクリートが崩れそうな階段や雪が積もったら簡単に滑りそうな坂道や寒空に卵を買うために並んだ店。一瞬にして留学生の頃に戻ったようで、このままいつまでも見ていたい...そう思った時、ポクロフスカヤ教会の鐘が鳴りだしました。時計をみるとびっくり、もうホテルに引き返さないと間に合わない時間。教会の鐘で現実に引き戻され、私は「かぼちゃの馬車」ならぬ送迎バスめがけて、来た道を必死でホテルに戻ったのでした。

「あの頃に戻りたい」。ほんのわずかな時間ではありましたが、夢がかなった瞬間だったのかもしれない。

本年が皆様の夢がかなう年でありますように。

脳のシワを増やす

荒川 好子 (JIC ペテルブルグ)

みなさん、明けましておめでとうございます。どうぞ本年もよろしくお願いいたします。

2018 年は「おしゃべり」の年にしたいと思います。自分の話はつまらないと悩むことが子供の頃からときどきあったのですが、聞き上手になればいいと自分を慰めていました。特に、ロシアに来てからロシア人とロシア語で話すときはそうでした。でも、聞いているだけで考えていないことが多かったのです。最近、脳がすっかり退化してしまったような気がします。きっと、脳のシワがなくなって私の脳はのべつとしていると思います。

ロシアの教育機関では、小中学校でも大学でも、あらすじや概要を短くまとめて話させる試験をします。私もロシアの大学で勉強していた時は、口頭試験を受けました。話すことは「考える」ためのとてもいいトレーニングでした。あれから何年も経ちましたが、今年はまた考えるトレーニングを始めたいと思います。それには「おしゃべり」だと思うのです。

2017 年は、個人的に、不安もあり喜びもあり喜怒哀楽の多い一年で、何かにつけ感情的になることが多かったのです。顔に笑いジワも泣きジワも増えました。2018 年は、積極的におしゃべりして＝考えて、ぜひ脳のシワを増やしたいと思います。

個人的な話ですが、2018 年はロシア生活 20 年周年を迎えます。言葉にしておしゃべりすることで考えをまとめ、20 年



をきちんと振り返りたいと思います。悪かったことを反省し、良かったことを誇りにし、自分を見つめ返す節目の年にできるように、今まで聞き上手なふりをしてサボっていた分、頑張ります！

JIC 25 年目の節目に

神保 泰興 (JIC 東京)

あけましておめでとうございます。私がモスクワ留学から帰国して、間もなく声をかけられ、JIC での仕事を始めたのは 1993 年のことでした。それから今年で、ちょうど 25 年になります。ソ連が崩壊し、新しい国々が発足した翌年でもありました。当時は学生アルバイトでしたので、雑用の、更に手伝いくらいからのスタートだったのですが、やがて大使館でのビザ申請や、そのうちにロシアに行く語学研修グループのアテンドや、訪日ロシア人の出迎えの仕事なども任せられるようになりました。それから 6 年経ち、ようやく学業から解放されたものの、怠惰な学生生活が祟り、他に行き場がなくなって、JIC に拾われたのが 1999 年。そこから数えても 19 年目に入ります。

正社員となり、アウトバウンドの手配業務に携わるようになりましたが、そのころのロシアはまだまだソ連崩壊後の混乱から抜け出し切れていない状況でした。ところがその後、プーチン政権の下、好調なエネルギー輸出なども追い風となり、ロシアはみるみる国力を回復。それに伴って日本とロシアの人の往来も右肩上がりで見え、私たち JIC も幸いにもお客様に信頼をいただきながら、年を追う毎にたくさんの方々の日ロ間の行き来のお手伝いをさせていただくようになりました。当時 20 代だった私も、気がつけば JIC 内でも上から何番目かの社歴となり、私よりもはるかに優秀な、多くの後輩に恵まれるようになりました。



また私生活でも、気ままでグウタラな学生だった私が、今では 3 児の父となりました。かつて混乱の極みだったロシアも、私が留学していた当時には想像もできなかったような豊かな社会になり、ソチオリンピックなど経て、今年はサッカー W 杯まで開催されます。ロシアの目覚ましい歩みと目まぐるしい変化の中で、幸いにも毎年、新しい出会いと新しい仕事の分野への挑戦は続きます。しかしながら、JIC は定年 65 歳ですので、現在 46 歳の私にとっては仮に最後まで勤め上げるとすれば残り 19 年、社員としても折り返しを過ぎたことになります。

25 年目の節目と折り返し地点。

「節目を大切にすると人は成長できる」と、昔、尊敬するある先輩に教えてもらったことがあります。その言葉を思い返した時、私にとって今年をどのような年とすべきか、1 年のスタートに当たって、いま思いを巡らしています。

今年もどうか宜しくお願い致します。



たまたましている間に撮影環境はどんどん変わってきます。結局考えて作業するのが面倒になり、無難な設定の写真をとって、現像で無理やり色を引っ張ってくるという逃げに走っています。

そういうわけでカメラを何年もやっているわりには変わり映えのしないものしか撮れない現状です。今年は現像に頼らず撮って出しても印象的な写真が撮影できるようにストロボと仲良くなりたいと思います。

「ローキーポートレート」

井上 沙弥香 (JIC 東京)

ポートレートにおいて目を惹く写真とは？

私が個人的に惹かれるポートレート写真は背景ローキー(露出アンダー気味)の被写体がぼんやりと灯りのように浮かぶ写真です。特に日中屋外、更に欲を言えば夕日の中のローキーポートレートが大好きです。

ただ、ローキーポートレートをいざ自分で撮影してみようとすると、これがなかなか難しいのです。例えば夜、街灯などをスポットライトにすることでそのような撮影することが可能です。しかし日中の屋外ではなかなかそうはいきません。屋外は自然光で溢れています。また光量も多く被写体のみを際立たせる効果は狙いづらいですし、被写体の写りばかりに気を取られていると背景が飛んだりしてしまうこともザラです。蛍光灯下の屋内もまたわかりです。被写体はきれいに写っているけれど空が真っ白にとんでしまっている写真、こころあたりありませんか？日中の光はなかなかオート設定ではコントロールが難しいのです。そんなときに役立つのがストロボです。背景アンダー気味に露出を合わせてカメラを設定しその分ひっぱられて暗くなってしまった被写体にストロボ光をあて被写体のみを浮き立たせることができます。しかし私はこのストロボが大の苦手です。ストロボ光量の感覚がいまいち掴めずシャッターチャンスを逃すこと数多。またストロボの光は白です。日中であれば白でも違和感は少ないですが、夕日や夜の光の下だと白は浮いてしまいます。そこでストロボにフィルターをかけ自然な光を表現します。この調整作業も大の苦手です。ブラケット撮影(カメラの設定で露出を自動的に変えてくれる連写撮影)で HDR 合成という方法もあるのですが被写体が動くとそれもなかなか難しいです。ストロボと仲良くなれず

色々なロシア企画に！

田邊 由紀子 (JIC 東京)



新年明けましておめでとうございます！2018 年のお題『今年やりたい事』の 1 つにまず挙げたいのは、何と言ってもロシア再訪です。実は、毎年書いているような気がするのですが、残念ながら諸事情により、いまだに願いは叶えられておりません。JIC とのお付き合いは学生の頃からと長めの私ですが、途中のブランクから復帰して今年は早 5 年となるようです。この節目にこそ行きたいと、今年もまた新たな決意でスタートしたいと思っています。

昨年は自宅の引っ越しがあったので、とても慌ただしい年でした。ただ 12 月初旬にロシアのある民族楽器アンサンブルの演奏を聴きに行く機会があり、久しぶりにロシアの空気を吸えたような、とても懐かしく、心温まる時間を過ごせました。前から 8 列目というなかなかの良席に着席し会場を見回すと、お客さんは私よ

りも年上の方が大半でしたが、出演者のご関係かロシア人の方もちらほらと。

演奏ははじめてから終わりまで、知っている曲(昭和な感じ)もオリジナルのアレンジを加えられて、まるで別の曲のように生まれ変わり、その世界に引き込まれていきました。ステージ上の奏者の方々も心から演奏を楽しんでいる、そんな雰囲気が会場全体に伝わるアットホームな公演でした。ただ残念なことに空席があったので、もっと沢山の方に聴いて欲しかったなという思いもありましたが…。あまりの感動に終演後に CD まで買ってしまい、サインを頂いてご満悦で帰宅しました。これを機に今年は、もう少しアンテナを張って、日本で催される色々なロシア企画に顔を出してみたいと思います。今年もどうぞ宜しくお願い致します。

ジョージア自然と文化と食の体験の旅

中林 英子 (JIC 東京)

JIC 企画の「面白発見の旅 ツアーリーダー募集」というのを昨年やっていました。2018 年のやりたいことは、体験型ツアーを提案することです。

私が提案したいのは「ジョージア自然と文化と食の体験の旅」。自然、文化、食の 3 つの分野を体験型で楽しむツアーです。

まずは自然の美しさを実感する軍用道路ドライブです。軍用道路とは 19 世紀初めに作られたロシア側北カフカスから大カフカス山脈を越えトビリシへ続く街道です。様々に移り変わる山々の表情は見飽きることがありません。道中、羊の群れに出会うのも非日常的です。牛や羊などが道路を歩いているカズベキ村で生活体験します。

文化はトビリシで都会的な雰囲気の中で堪能ください。まずは改修が終わったトビリシオペラ劇場で観劇。劇場の内装の豪華さは異次元の世界に来たように感じます。バレエの新作も次々に上演され、常に満員の観客の喝采が響き渡っています。ジョージア民族舞踊も世界各地で公演されるほど有名です。男性はアクロバティックな踊りで高く跳び、女性は背筋を伸ばし優雅に舞います。レストランで鑑賞し、そして少し動きを教わってみるのもよいでしょう。

最後に食はワインとジョージア料理を満喫します。葡萄酒訪問とワイン講習会に参加してみましょう。ジョージアワインはユネスコ世界遺産に登録され、ワインの発祥地と言われています。多くの葡萄の品種、ワインの種類、独自のワインの陶器ボトルなど、知れば知るほど奥深いです。現地の人達はとても陽気で温かいので、話を聞きながら交流しましょう。そして、ジョージア料理教室。個性豊かなジョージア料理のいくつかが作れるようになれば、帰国後の楽しみもふえます。

ジョージアはあまり馴染みのない国ですが、自然豊かで素晴



らしいところなのでもっと身近になればよいなあという気持ちを込めて提案します。

皆様に興味を持ってもらえると嬉しいです。

今年こそは筋トレ！

竹村 貢 (JIC 東京)

明けましておめでとうございます。インバウンド部の竹村です。今年もよろしくお願いいたします。

毎年 11 月頃に会社の健康診断があり、診断結果で血糖値が高いとか、今より 2、3 キロ体重が増えるとメタボ予備群になると脅されて、筋トレを始めようかと思いましたが、まずは道具からということでダンベルを買ったり、腹筋ローラーを買ったりして、家にあるのですが、何日かすると、今日はお酒を飲んだから、今日は子供を抱っこしたから、腹筋が痛いからと、何かと言い訳を作ってやらない日が続き、筋トレが長続きしないのです。

私としては目に見えるところにダンベルや腹筋ローラーを置いておけば続けられるかなと思い、わかりやすいところに置いておくと、好奇心旺盛の息子たちがそれを見つけだし、腹筋ローラーをコマのようにして遊んだり、車のおもちゃのように転がしたりして、危ないからという理由で妻が子供の視界の入らないところに置いてしまうのです。



今年こそは、筋トレを続けるためにまず自分の見やすいところに棚を作って、そこにダンベルや腹筋ローラーを置けば視界に

入ってくるので、忘れないかなと思っています

そのためには、棚づくりをしなきゃいけないので、ホームセンターで、棚を作る材料や工具を買うつもりです。今まで一回ぐらいしか棚を作ったことがないので、ちゃんとした棚が作れるか心配ではありますが、棚づくりと筋トレが今年やることです。

頑張ります。

小さな幸せ、たくさん見つけたい

鶴田 ゆり (JIC 東京)



出産、育休を経て、昨年 4 月に職場復帰しました。電話に緊張したり、何度も何度も確認したり、気分はまるで新入社員です。毎日全力で駆け抜けていたら、あっと言う間に年が明けてしまいました。

今年も一年どうぞ宜しく願い致します。

お題の「2018 年、これがやりたい!」。今年は小さな幸せをたくさん見つけられる感性を磨きたいです。

こどもが生まれてからの毎日は、小さな幸せと笑いに満ちています。欲張りな私はそれを出来るだけたくさん見つけて、自分のパワーにしたいなと思っています。

かぼちゃの煮物を「いちばんだいしゅきなごはんなの」と嬉しそうに食べる顔。

保育園のお散歩のときに拾ってきてくれたお土産のどんぐりが、空き瓶に日々増えて行くこと。そのどんぐりのいくつか、家の観葉植物の土に突き刺さっているのを見つけた時の驚き! (トロの影響で、芽が出ると思って植えたらしいです。思わず笑ってしまいました。)

お気に入りの絵本に出てくる にんじんクッキーが食べたいと言って泣いちゃったこと。

見つけてやるぞ! と思ってアンテナをピンと張っていると、毎日毎日、起きてから寝るまで、本当にたくさんのくすつと笑顔になる幸せな出来事に溢れていることに気が付きます。

娘と過ごしていると、自分が小さかった頃のことを思い出します。毎日何かしら発見や冒険があつて(泥団子をものすごく固く

する方法を見つれたり、自分で作ったおにぎりを持って友達と近所を冒険したり)、一日の時間が濃密だったなど。これからどんどん広がっていく娘の世界に、私もそつと寄り添って、たくさんのわくわくときどきを見守っていきたいです。

久しぶりの……

佐藤 早苗 (JIC 東京)

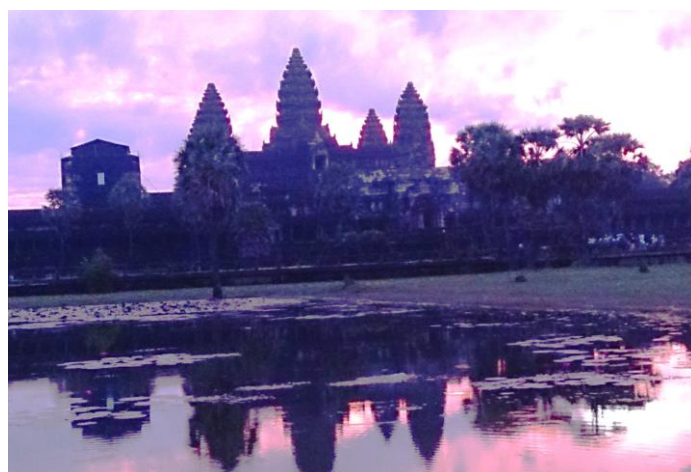
あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

ここ最近は毎年 1 回、多い時は 2 回海外旅行に行っていますが、考えてみると家族 3 人で海外に行ったのは一度のみ。それも遙か 20 年前のことです。海外大好きな娘も毎年のように行っているのに、2 人で行くのは問題ないのですが、夫(ロシア人)と 3 人で行くとなると気軽に「はい、パスポートを持って出発!」とはいきません。ビザの問題があるからです。

10 年ほど前に友人の結婚式でハワイに夫婦で行こうと思った時、ロシア人のアメリカビザの取得について調べたところ、アンケート欄の記入事項のあまりの多さに(例えば職歴などかなり詳細に書かなければならなかった)断念してしまいました。そんな経緯があるので、夫が海外にあまり興味がないことも相まって、3 人での海外行きは長い間お蔵入りとなっていました。

ところが、娘が就職したらなかなか休みも取れないだろうし、3 月までがラストチャンスかも! と考え始めた途端、急に自分の中で「最後かもしれない家族海外旅行」への夢(妄想)が膨らんできました。

さーて行き先はどこにしよう。ロシア人がビザなしで行ける国、



アンコールワットの朝焼け

かつ夫は長時間のフライトが苦手なので近場の国と言えば……そう、韓国だ! 確か数年前にロシアと韓国は相互ビザ免除協定を締結したのでビザは要らないはず。リゾート地の済州島は行ったことないし、いいかも! と 2 人に提案したところ、即却下。他に候補はないのに……今回もまた見送りかと諦めかけた時、た

またま話をしていたロシア人の同僚からこんな言葉が。「グアムは、ロシア人はビザは必要ないですよ」

グアム＝アメリカだと思っていたのですが、グアムは州ではなく準州なのでアメリカ本土とは違う扱いになるようです。という訳で、行き先がすんなり決まったのは言うまでもありません。

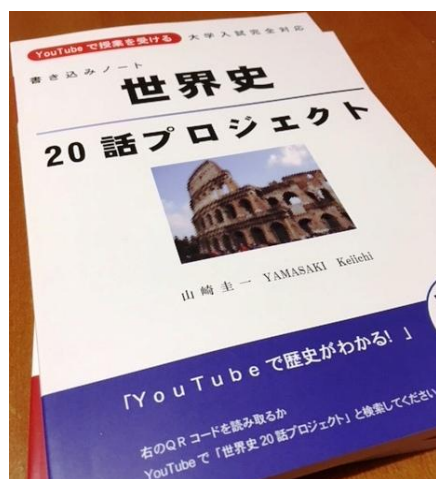
ちなみにロシア人がビザ無しで行ける国は、韓国、グアムの他にも香港・マカオ、ベトナム、マレーシア、イスラエル、トルコ、南米のほとんどの国々・・・と意外に多いことがわかりました。

果たしてグアムの次はあるのでしょうか・・・

今年、これがやりたい！

「世界史 20 話プロジェクト」

山下 篤美 (JIC ペテルブルグ)



「2018 年、これがやりたい！」最初にこのお題をいただいたとき、正直、私の頭の中には、何も思い浮かびませんでした。そして、ティーンエイジャーの娘二人を育てている身なので「健康に一年過ごせれば、それで十分。自分のことより、娘た

ちがやりたいことをサポートすることが、私のやりたいこと」というのが、しばらく考えて出た答えでした。

しかし、それじゃあ、ちょっと寂しくもあり、また好奇心を失ってしまったら、老ける一方だな・・・と、頭の中の引き出しを探ってみたところ、あった、あった、ありました。私にも「やりたいこと」。

それが、この写真の「世界史 20 話プロジェクト」です。

一か月ほど前、ネットのニュースで「You Tube 上にわかりやすく、楽しく世界史の授業を公開している九州在住の山崎圭一先生という方がいる」という記事を読みました。面白半分に覗いてみると、これが確かにわかりやすい。高校時代にやったきりの世界史を再度勉強してみたくなくて、早速、専用のノートを取り寄せました。

You Tube ですから、講義はもちろん無料。 Санктペテルブルクのネット環境は比較的良好で、ネット代は自宅用と携帯用と併せても月々 1600 円程度と実に財布に優しい！そんなわけで、暗い冬の時間を、この動画を見ることで過ごそうと決めた次第です。

20 話、全 200 回分の動画を、このノートを取りながら見終わること。それが、今年の私の目標であり、やりたいことです。

「おおきに」

金井 義彦 (JIC 東京)

<まえおき>

- ・金井さんに昔から言いたいことがある。
- ・忘れないように、言いたいことは紙に書いて、今発表いたします。
- ・もっと詳しく、きれいに書きたかったけど、勉強で忙しいため、短くてすみません。

<本文>

4 年前、五月のある日はとても特別な日でした。その時は、すべてである父を失って、趣味、目的、興味、夢などが全部わからなくなった私は、迷子のような状態だった。そして、うちへ帰るとき旅人の金井さんに会った。面白い人だなと思って、たくさん話したりしたかったけど、日本語、英語も下手で、話はあまりできなかった。その日、うちへ帰って、そのあと三か月で日本語を上級ぐらいまで勉強した。なぜ勉強したかというと、これから面白い人に会ったら、金井さんにもまた会ったらお話したいから。

日本語を勉強しながら、色んなことが分かった。夢、目的、趣味、興味などはすべて戻ってきた。それらのために、頑張る力もあった。金井さんは旅行をして、その旅行は自分の中、自分の人生を変えようと思うかもしれない。それに加えて言いたいのは、金井さんがした旅行は、ほかの人の中、ほかの人の人生も変える。それは旅の力だろう。この手紙の名前は「おおきに」です。これは金井さんからもらった紙に書いてあった言葉です。私は今までががんばったこと、今、日本にること、金井さんがくれた刺激のおかげです。

これからもよろしくおねがいします。



——2013 年にアルメニアでふらふらしている時に出会った女性と 2 か月前に再会し、彼女は論文形式の手紙を目の前で音読してくれた。そんな大それた気持ちなど無いけれど、結果的に誰かの人生が少し変わるような、自分勝手な旅が今年もで

きたらと思う。

いつもカメラを片手に

小西 章子 (JIC 大阪)

私は、年が明けたら、前年に撮った写真を編集してアルバムを作る、ということをここ何年も続けている。娘を出産して成長を残したいと思ったのがきっかけだが、事務作業のように続いているのではなく、思いの外楽しく、いわば趣味の一つのようなものになっている。



とはいえ費やせる時間にも限りがあるため、写真をプリントして切って貼ってコラージュして完全オリジナルで・・・ということとはとてもできなくて、あらかじめ写真枠が配置されたページに写真を選んではめていくウェブ上のフォトブックサービスを利用している。アルバムの大きさや形、ページ数、コメントの入れ方、写真の枚数などを自分仕様にカスタマイズできるし、そこそこオシャレに仕上がるので十分満足している。

不満足なのはむしろ写真のほう。フォトブックサービスとは何の関係もなく、なおかつ性能のいい近頃のカメラにも全く責任はなく、単に自分の撮影技術と知識と経験不足の問題である。編集していると、「ここにこんな写真が欲しかった」と思うことが良くあるが、時すでに遅し。撮った写真の中から選ぶほかないのが現実だ。

去年は久しぶりにガッツリ ロシア出張に行くことができた。1週間で 4 都市を回るハードスケジュールだったのだが、季節的にも良い時期でなおかつ天気もほぼ晴れ！という写真を撮るには絶好のコンディションにもかかわらず、なかなか満足な写真が撮れない。けっこう撮ったつもりでも、後で見返すと使えそうなものはほんの一部で、「あそこからのアングルで撮っておくべきだった」、「こういう雰囲気に撮りたかった」など反省しきり。やっぱりプロはプロだなあと思う。

そういった満足のいかない写真を振り返るにつれ、写真をもっと上手に撮りたい、素敵な写真をもっとたくさん観賞し、勉強したいと思うようになった。それが、今年やりたいこと。来年の年明

けに作るフォトブックは一段レベルアップしていることを願う。

「一歩！」成長したい

柳沢 昭子 (JIC 東京)

明けましておめでとうございます。一昨年から昨年にかけでお休みをいただき、昨年、仕事に戻らせていただきました。しばらく業務から離れていましたが、デスクに戻ってみると、手が勝手に動いてくれて、頭の中の思考回路もお仕事用に切り替わっていました。きっとこの職場が作り出してくれる雰囲気のおかげだと思います。あらためて感謝です。

2018 年はサッカーワールドカップがロシアで開催されますが、2002 年に日韓共催で開催された同大会の試合を観戦したことを思い出しました。それほどサッカーに興味があったわけではなかったのですが、幸運にも友人がチケットを確保することができたので連れて行ってもらいました。私が観戦したのは宮城スタジアムでのアルゼンチン対スウェーデン戦でした。アルゼンチンのファンではありませんでしたが、デザインで選んだアルゼンチンのユニフォームを着て、お祭り騒ぎに参加しました。たしかスタジアムは観客でいっぱい、とても楽しくて和やかな雰囲気だったように記憶しています。ロシアでのサッカーワールドカップが楽しくて平和でいい大会になることを心から祈るばかりです。

2017 年は目の前のことをこなすのが精一杯で、日々を振



り返ることもできませんでした。2018 年は「一歩！」成長したいです。語学に磨きをかけたい、体力作りもしたい、そして、余裕をもって日々を過ごしたいです。来年のこの時期、「一歩！」成長したと実感できるよう、今日ここに書いたことを忘れないようにしたいと思います。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

「新たなドキドキ!!」

白井 秀治 (JIC 東京)



皆様 あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願い致します。

2018 年 JIC スタッフ挨拶のお題が「2018 年、これがやりたい!」と指令が発表されたのが昨年 10 月末。毎年のよう

に親バカ記事をだらだらと書かせて頂いておりますので、昨年同様 (個人的にはシリーズ化されております) 親バカ的内容を書かせて頂ければ幸いです。

改めまして、「2018 年これがやりたい!」

保育園でもすこぶる元気な双子の我が子も既に 4 歳。今年は 5 歳です。2017 年のテント泊は目標の 50 泊を超え 55 泊で終了しました。正直、ちょっとキャンプに行き過ぎた感がありますが、それはそれでよしとして…2017 年、我が子たちがチャレンジしたのが BMX!!

バイスクル・モトクロス!!

なんてワクワクするワードでしょうか!?

八ヶ岳にある BMX 本格コース (プロの大会なども開催する) で数日遊んで (もちろん転倒続出でしたが…) キラキラと輝く笑顔が絶えませんでした。見ているだけのわたくしもつつい大きい大きな声で我が子を応援してしまいました。このようなスポーツはやっている本人が一番楽しいものです。

そうなのです。実際にやっている人が一番楽しいのです。

その昔、四駆でトライアルを少々楽しんでた時もそうでした。車を転倒させてフロントガラスが割れたりフェンダーがつぶれてタイヤが回らなくなったり…、コースを高速で



ジャンプして着地した時、足回りのショック 4 本全て折れてしまったり…、修理しなければならなくても楽しくて仕方ありませんでした。

そうです。我が子を応援しているわたくしは…30 年以上前の自分の姿を見ていたのです。

「BMX コースで転倒して擦り傷をつくっても…」＝「四駆が転倒して壊れても…」、笑いが止まらない。目の前にこんな方程式が!!

心の中で燦燦していたわたくしのハートに火を付けたのが、我が子とは!

そうです。まだまだ終わっちゃいないのです!

「決めた! パパも君たちと一緒に BMX やるぞ!!」とコースからキャンプ場に帰ってきて、テントの中で我が子に熱い決心を語ると…「僕たちがパパにも教えてあげるね!!」と心強いワードが帰ってきました。

転倒しても、怪我をしても楽しめること。家族皆で BMX と防具を揃えコースを走ろう!

新たなドキドキ。

「2018 年のこれがやりたい!」は BMX を楽しむことです!!

普通二輪免許取ってオフロードバイクデビュー!!!

白井 真理奈 (JIC 東京)



オフロードバイクに憧れて、昨年 11 月から普通二輪免許取得の為、教習所に通い始めました。バイクに乗りたと思ったきっかけはとても些細な事で、我が家が良く訪れるキャンプ場でのオフロードバイクチームとの出会いでした。目の前を走り去る何十台と連なるバイク。それを目にした瞬間心臓バクバク、テンションマックス!!! 私のハートを驚掴み(笑) 子供達も興味津々で見ていると、すぐ目の前でブォーンとウィリーしてくれるサプライズ♪ その瞬間、「カッコイイ!! 僕もオフロードバイクに乗りた

い!!」と大興奮の子供達に加え、「僕も乗りたい」→「それならママも乗りたい」→「じゃあ、とりあえず免許取っちゃお」、という成り行きになったのです。

現在、我が家の双子は身長 105-6cm。50cc のキッズバイクに乗るにはあと数 cm は欲しいところです。それまでは普段乗っている BMX でオフロード走行に慣れてもらい、来年、再来年頃(年長さんまで)にはオフロードコースでバイクに乗せてあげたいな、と思っています。「子供達と一緒にバイクに乗りたい!!!」と思うならば、まずは親がしっかり運転できなくちゃ(笑)

肝心な教習の進み具合の方はいたって順調♪ スムーズに行けば、2 月末には(きっと、いや多分)免許を取得して中古バイク屋さんで憧れの KLX125 を探しまわっている事でしょう(*'艸*) 近い将来、子供達とバイクに乗れる日を夢見て、一足先にオフロードバイクデビューをしたいと思います。

ところで、今年のテーマ「2017 年の夢」に関してですが・・・実現できたのは 3 つのうちたった 1 つ、「キャンプ年間 50 泊」のみでした(^;) 残念ながら島デビューはならず。山の方は室堂から剣沢へ行く予定で準備したものの、天候不良で登山はキャンセル。やはり小さい子供を抱えての夢の実現はなかなか厳しいものでした。

今年こそは!!!! と、目標達成に意気込みたっぷりの今日この頃です。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

やりたいことなんかさせてあげない と言われたい

岡本 健裕 (JIC 東京)

38 歳の私は、世の中をより長期的に俯瞰できるようになりました。今、自分の周りでは、ほんのひとつかみで 3、4 年が過ぎていきます(体感では 2 秒)。この文章のお題は「2018 年、これがやりたい!」だそうです、そんなものはありません。もはや 1 年など、あまりにも一瞬で認識できないからです。

わくわくすることはいつも、ささいな心のスイッチで簡単に増殖します。これまでパチパチ押しまくっていましたが、そろそろ最後のスイッチを切って人生終わりにしちゃおうかな、と思い始めてきました。上記の体感時間で 1 年以内に、ですけどね。計算してみたら 5 千万年くらいになりました。たぶん、あつという間です。

人類の文明の優れたところは、都市を生み出したことです。人間の持っている時間スケールに寄り添うように新陳代謝する空間は、自然界にはありません。周りのものには自分と一緒に歳をとってほしい、という願望を、自然は一切聞いてくれませんが、都市は絶妙に叶えてくれます。

私はモスクワが好きなのですが、それはこういう「都市の優し



さ」をたまに捨ててみせるからです。昔の恋人がいつまでも歳をとらず、美しい姿で突然目の前に現れるかのような、残酷なイベントが巧みに用意されているのです。モスクワは耳元でこうささやきます。「本当は私は何も変わっていないの、あなたも所詮は通りすがりのよ」——たまりませんね。

私がやりたいことは、そういう都市を日本にも作ることです。日本にも例えば京都のような、別の残酷さを秘めた都市はありますが、それは住民とともにきっちり歳月を重ね続けることで形成されたもので、ちょっと違います。普段は優しい顔の都市が、たまに本性を現すために必要なもの、それはたぶん、直近 100 年間の鮮明な記憶と、その忠実な再現劇だと思います。まあ、私なら 1 分もあれば作ってみせますよ。もちろん上記の体感時間で、ですけどね。

モスクワの冬の遊び

チステイーナ・イリーナ (JIC モスクワ)

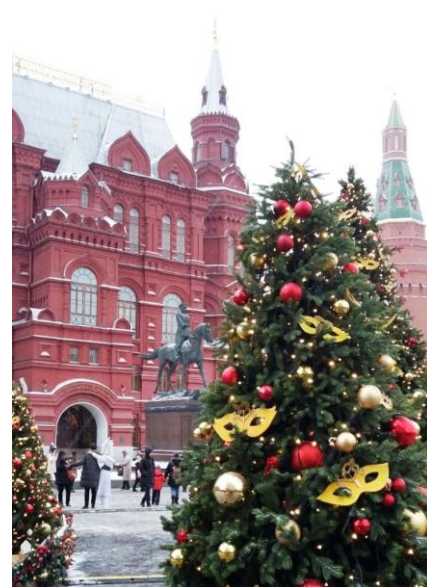
あけましておめでとうございます。

皆さん、新しい年が最高にハッピーで良い年になりますように祈っています。今年も JIC 旅行センターをよろしくお願い致します。

新たな経験がありますようにと願って、2018 年を迎えています。ということで、皆さん、ロシア冬の体験はいかがでしょうか？

ロシアの冬は暗くて寒いというイメージがあります。事実はどうでしょうか。

ロシアは広い国なので地方によって気温と明るい日の期間が違います。冬のモスクワだと、平均気温はマイナス 19 度です。日照時間はやはり少ないです。モスクワの日の出は 9 時で、日の入りは 16 時頃です。曇っているので昼間も太陽



をあまり見ないことが多いです。

しかし、冬が好きかどうかロシア人に聞いてみたら、皆さんは驚くかもしれませんが、ネガティブな回答はあまり返ってきません。もちろん、寒さに疲れて、夏を心待ちにするロシア人もいますが、冬にはいいところも多いです。子供のため、冬は毎日がホリデーのようです。雪合戦をしたり、雪だるまを作ったり、ソリ遊びをしたりする機会がたくさんあります。気温がマイナス 30 度以下になると、学校は休校になります。率直に言えば、この「追加休暇」は子供たちを喜ばせます。

子供だけではなく、大人も冬の日を楽しみます。スキーをしたり、スケートをしたり、さまざまなスポーツをして寒い時間を過ごします。冬の期間にも市内の公園には人がいっぱいいます。

モスクワ市内や近郊の冬のオススメ活動

・スケート

冬になると、屋外のスケートリングがオープンします。最も有名なリングはゴーリキー公園と VDNKh にあります。毎年、赤の広場の横の Gum 百貨店の近くにもスケートリングが作られます。ソ連時代の歌を聞きながら、聖ワシーリー寺院をバックにスケートを楽しめます。

・スキー

12 月中旬、ソコーリニキ公園でクロスカンリースキーのトレックが作られます。公園でスキーのレンタルができます。モスクワでも山スキーができることは想像できないかもしれませんが、ナゴールナヤ駅の周辺に「KANT」という小さいスキー場があります。山に行けなかったロシア人の中にはヤーホロマ、ソロチャーニのスキー場がポピュラーです。ソロチャーニは金曜日と土曜日に朝の 3 時まで営業します。

・そり遊び

雪が積もると、丘があるところで子供たちはサンクスライディング (そり遊び) をします。VDNKh、ソコーリニキ公園で滑り場が作られます。VDNKh の「RAKETA」は一番高い滑り場です。高さ 20 メートルで、長さ 180 メートルのコース。大人も滑ることができます。

・トロイカ乗りや犬そり遊び

昔から伝統的なロシアの遊びの一つは 3 頭の馬に引かれるトロイカ乗りです。今でもコロメンスコエ公園でトロイカの体験ができます。犬そり遊びも盛んです。

・冬のフェスティバル

最近、モスクワでは色々な冬のイベントが行われるようになりました。お正月の時にはクリスマス・マーケットがオープンします。ロシアの食べ物、クリスマスツリーの飾り、暖かい靴下や手袋などを売っています。

1 月中旬、ソコーリニキ公園では雪だるまのフェスティバルがあります。

・散歩～街歩きも楽し

冬のと看、モスクワ中心部の通りは綺麗なイルミネーションで飾られ、あちこちに屋台の店が出ますから、ゆっくり散歩が一番です。歩いていて寒くなったら、カフェでスープを食べて、温かい紅茶やグリュウワインを飲んで、時間を楽しく過ごせると思います。

皆さん、冬のモスクワによろこそ！

ロシアの新年

キリチェンコ・オリガ (JIC 東京)

新年おめでとうございます。昨年は色々とお世話になりました。今年も宜しくお願い致します。今年も弊社と一緒に旅行していただくと幸いです。



ロシアには日本と同様に多くの年間行事が存在します。ですが、その中でも、子供から大人まで誰もが愛する行事があります。それがロシアの新年です。この行事は一年の中で一番楽しく、明るい、にぎやかな、国民全員が一つになれる大きな行事です。

大事なものは行事だけでなく、その行事に向けての準備でもあります。準備は家の大掃除からはじまります。大掃除は女性にとっては満足感を与えますが、男性や子供には掃除は嫌という人がたくさんいます。

次はたくさんの料理を作る作業です。新年のテーブルには日本でも有名なロシアの伝統料理が並べられます。例えば、サラダ・オリヴィエ。これはロシアのサラダの一種で、「首都サラダ」の名称でも知られています。元々はフランスのサラダでしたが、長い歴史とともにロシア人にとって伝統的なサラダとなりました。また、「毛皮のコートを着たニシン」というサラダも人気が高いです。このサラダは主にニシンとビーツから作られています。

ホロデツという美味しくて、健康に良い料理もあります。ホロデツは、一口サイズに切られたお肉と肉汁を冷え固めてゼリー状にした「煮ごり」です。ホロデツの中には、自然体コラーゲン成分が濃厚に入っており、とても体にいい料理とされています。が、多くの外国人はあまり好みません。

その他、イクラやキャビア、様々な種類のハム、ウォッカなどの伝統的料理が並べられます。

行事当日、子供たちはジェド・マロース (ロシアのサンタクロース) とその孫のスネグーラチカを楽しみに待ちます。その二人が来ると、子供たちはいっせいに歌やダンス、新年に関する韻文などで二人を楽しませて、プレゼントをもらい

ます。私が小さい頃は、ジェド・マロースはお父さんやおじいちゃん、家族の友人などが衣装を身に着けて子供たちを喜ばせました。ですが、今ではお父さんやおじいちゃんの代わりに、プロのアーティストを頼むこともできます。



深夜の 12 時前になると、テレビで大統領が全国民にお祝いのメッセージを送ります。大統領の話が終わると、12 時になる 12 秒前にテレビからクレムリンのスパスカヤ塔の鐘時計が 12 回鳴る音が流されます。

スパスカヤ塔の鐘時計がモスクワのシンボルであり、新年のシンボルでもあります。時計が鳴っている間、人々はシャンパンを飲みながら願いごとを願い、互いにお祝いのメッセージを送りあいます。鐘の音が鳴り響く中でゆく年くる年で、願いごととは必ず叶うと言われます。そして 12 時ぴったりになると、全国的に花火が打ち上げられます。花火が終わると、パーティーが朝までくり広げられます。

1 月 1 日、多くの人々はパーティーの疲れをとるためにゆっくりと過ごします。テレビで新年番組やコンサートなどを見ながら、ペリメニを食べます。ペリメニ (シベリア餃子) は家庭内で手軽にできる料理で、スープに入れて食べたり、またはスープなしでサワークリームをかけて食べたりすることができます。

ロシアの冬期休日は 10 日間続き、その間にロシア人は国内や外国へ旅行したり、様々な冬のスポーツやアクティビティを楽しんだりします。

日本ドストエフスキー協会

入会のご案内

本会は、ロシアの作家フョードル・ドストエフスキーの文学とその世界観に関する研究とその普及を目的とし、広くロシア文学・文化を愛する人々の輪を作ることをめざしています。

会長; 亀山 郁夫 (名古屋外国語大学学長)

副会長; 望月哲男 (国際ドストエフスキー協会副会長)

URL: <http://www.dsja.jp/index.html>

申込みはメールで (会費は無料) ⇒ dsja_gg@nufs.ac.jp

テルミン奏者・第一人者

竹内正美「復活の日」コンサート

脳出血の発症より 1 年。右半身麻痺と闘いながら、テルミン奏者として新たな境地をめざす。テルミン演奏の日本における第一人者であり、マトリョミンの開発・普及に努められてきた竹内正美さんの演奏家としての復帰コンサートです。

1 月 21 日 (日) 16:30 開場 17:00 開演

会場; 早稲田奉仕園 スコットホール

(地下鉄東西線「早稲田駅」下車 徒歩 5 分)

出演; 竹内 正美 テルミン

濱口 晶生 テルミン

Mable & Da マトリョミン・アンサンブルズ

渡邊 さらさ ピアノ

前売券; 一般 2000 円、学生 1000 円

当日券; 一般 2500 円、学生 1500 円

申込み・問合せ先; コンサート実行委員会

TEL; 090-8647-6020

Mail; thereminsamurai@gmail.com

詳しくは ☞ <https://thereminsamurai.com/>

日本語教師募集 !

キルギスの 11 年生学校「ピリムカナ・カント校」

キルギスで日本語教師をやってみませんか。
ビシケク郊外にある 11 年制学校で、日本語教師を募集しています。やる気のある人であれば、年齢、性別、学歴を問いません。給料は少なく、ほぼボランティアの条件ですが、教師経験を積み、ロシア語もしくはキルギス語を学習するよい機会になります。

<条件>

受入校; ピリムカナ・カント校 (私立の 11 年制学校)

所在地; ビシケク郊外 (バスで約 30 分) のカント市

授業数; 1 授業 40 分 × 1 日 3 授業 × 週 5 日

給 料; 月額 150 ドル

宿 舎; ホームステイまたは学校の寮 (1 人部屋/無料)

* アパートを希望する場合は自己負担。

特 典; 希望によりロシア語またはキルギス語の授業が無料で提供されます (40 分授業 × 週 3~4 回)。

募集人数; 1~2 名

期間; 18 年 9 月 ~ 19 年 6 月 (希望により延長あり)

問合せ先; JIC 東京事務所 TEL; 03-3355-7294

e-mail; jictokyo@jic-web.co.jp

《旅行記》ソロベツキー諸島

人を変えてしまう島

【第 4 回】魅惑のクゾバ諸島

モロゾフ デニス (JIC 東京)

4 日目になっても晴れる兆しのないソロベツキー島。

どんよりとした雲は、今日も雨に降られることを約束していたかのようだった。朝 8 時半にホテルを出発し、島に点在している船着き場の一つ、ヘタ港へと歩いた。ヘタは日本語では「下手」という意味だよ、と同行者を笑わせながら歩を進めたが、実際に見るヘタ港は日本語の「下手」を見事に表している場所だった。

不揃いの板で作られた栈橋の先には、頑張ればもう少し「上手」にできたはずの小屋が立ち、大きな文字で「ヘタ」と書かれていた。写真を撮らずにいられない。



「ヘタ」な船着き場

ヘタ港で我々を待っていたのは、ソロベツキー島の雰囲気にとぐわな最新型の高速ボートだった。聞けば、島には 2 隻しかないらしい。前日のアンゼル島行きでの「難民船状態」に懲りたリュドミラ社長が急遽、高速船を手配してくれたのだ。

中年のキャプテンに順序よく船室に案内され、席に着くやいなや、ボートは轟音とともに急発進。びっくりしてコックピットを覗くと、温厚な人に見えたキャプテンは鬼の形相で F1 ドライバーなみのスピードを出しながら荒波を睨みつけていた。この日記のタイトル「人を変えてしまう島」をまるで体現している。クゾバ島に着くまでの 45 分間は、「浮き沈みが激しい」という日本語の表現がまさしくどういうことを意味しているのか、痛い程分かった。実際に痛かった。数秒の間に宙に浮いた船は、次には思いっきり水面に激突する。その度に脳震盪に近い衝撃を覚える。何かにつかまっていないうとすぐに床に投げ飛ばされそうになる。格好よく呼ぶなら、「海のロデオ」だ。それにしてもこのロデオは尻が痛い。



島には栈橋がない。ゴムボートに乗り換えてクゾバ島に上陸

地獄の 45 分間が過ぎて、ようやく目的地に到着。高速船からゴムボートに乗り換え、ついにクゾバ諸島の島に上陸！

周りを見渡すと不思議な風景が広がっていた。なだらかな小島があらこちらに隆起していて、この厳しい土地に似合わない、かわいいらしい景色を織りなしていた。浜辺にはテント村があり、学生らしい男女が談笑しながら焚火で暖を取っていた。彼らの中に本日の我々のガイドがいるはずだが、声かけても「知らん」の一言が返ってくるだけ。しばらくたって、我々のグループリーダーがさすがに怒り出したところに、ようやく目当てのガイド、イワン君が登場した。彼はこの島で夏場フィールドワークをしている研究者で、時々ガイドのアルバイトで生計を補っているらしい。

イワン君は手際よく説明をしながら我々を島めぐりのトレッキングへと導いていく。しばらく浜沿いに歩いた後、途中から岩場に取り付き、海拔 126 メートルの山頂まで一気に登る。頂上は広く、そして周辺は見渡す限りかわいい丸い島々が続いている。クゾバ諸島に学者や観光客が集まる理由は、頂上付近に見られる「セイト」と呼ばれる巨大な石積みにある。ガイドは様々な説を披露してくれたが、最も有力なのは、サーミ人というフィンランド系の古代先住民族が何らかの儀式に使ったのではないかという説だ。

小雨の中、石の偉大さとそれに気づいた人々の偉大さにしばし思いをはせる。石はこの世の最も古いものといっても過言ではない。一見武骨に見えるが、内面には全世界の今までの記憶が眠っている。石は過去も現在も未来も知っている。人間が地球に現れる前のはるか昔の景色をこれらの石は見ている。人間が地球から消えた後もこの石たちはきっと静かに見続けるだろう。石の記憶は侮れない。それに気づいた人間は石を敬い、石の

記憶を少しでも呼び覚まそうと、置き方を考えたり、石組みにまともてみたりしたに違いない。クゾバ諸島の「セイト」にはきっとそういう意味がある。うまく言い表せないが、ここは一種のパワースポットだ。不思議な雰囲気満ちた空間が頂上付近に広がっているのが感じとれる。

今日の一日に深く感謝しよう。周りに広がる島々と白海の雄大な景色はそんな思いをより一層強くする。



急こう配のためロープを伝って頂上を目指す



山頂に広がる「セイト」群像



クゾバ諸島の雄大な景色

島の頂上からの風景を思う存分楽しんだあと、再び浜辺へ降

り。「ロデオ」号が戻ってくるまではまだまだ時間があった。ガイドのイワン君を囲み、雨避けのプレハブの中で質素だがとてもおいしい昼ご飯をいただく。自然に会話も弾む。笑ったり、歌ったり、茂みに生えるブルーベリーのような小さな黒い実を摘んで口に入れたり・・・、雨には降られたが、今回の旅の中でおそらく最も幸せな時間を過ごした。

そういった意味でも、ここはやっぱりパワースポットだった。

* * *

帰りの高速船に乗り込み、クゾバ諸島の残像に浸った・・・、と書きたいところだが、温厚なキャプテンは再び鬼の形相で船を操り、脳震盪に近い衝撃を我々に容赦なく与えてくれる。船内に流れるキャプテン選曲の音楽は海の唸りすらかき消す大音量だ。クゾバ諸島の残像は一瞬で消え去った。(つづく)



<メモ> クゾバ諸島:

クゾバ諸島は、ソロヴェツキー諸島と白海を隔てた西対岸の町ケミとのちょうど中間に位置する。ソ連時代には、ケミから送られてくる囚人を乗せた船を受入れ、また脱獄者を監視する警備隊がここに置かれていた。

花崗岩質の岩山から成る 16 の小さな島が集まっており、引潮になると地続きになる島もある。火山性の噴出物でできた島で、地熱が高く、同緯度の他の地域よりは温暖なので、北極の鳥たちの越冬地になっている。5 月にはトドも北から流れ着く。熊もフィンランドから泳いで来ることもある。植生は、樅、白樺などの灌木とツンドラ。

サーミ族(フィンランドの現住民族)の「石の文化」の痕跡が島のあちこちに残されている。山頂部に散在するたくさんの石積みは、ロシアではまだほとんど研究が進んでおらず、フィンランドの研究者たちの研究成果を参考にしながら調査が続けられている。

モスクワ・マラソンに参加して

クレムリン、玉ねぎ屋根の寺院、 モスクワの町を駆け抜ける

松本 拓也 (熊本県合志市)

私は趣味のマラソンを始めて 30 年。これまでに国内外のいろいろな大会に出場してきました。特に定年退職した3年前からは海外マラソンに参加する機会も増え、世界各地を走るようになりました。そのような中、かねてからロシアという国に魅力を感じており、一度モスクワマラソンを走ってみたいと思っていました。

インターネットで検索したところ、ロシアを専門とする JIC 旅行センターの存在を知りました。昨年まではマラソンツアーの企画があったのですが、今年はオプションでの設定とか。値段も他社より比較的リーズナブルであったため、早速友人を誘って二人で申込みました。しかし、現地でガイドとは合流するものの、マラソンスタート後はガイドが外れ、その後はすべて自分たち二人で行動しなければならず、ロシア語が全く話せない私たちは不安の中で出国の日を迎えました。

大会は 9 月 24 日に開催され、今回が 5 回目です。

大韓航空機で福岡から韓国・仁川(インチョン)に飛び、仁川からモスクワまで約 10 時間の長旅でした。ロシアの首都であるモスクワは人口 1200 万人。クレムリンを中心に放射状に広がる大都市です。道幅も広く、モスクワ大学をはじめ外務省などスターリングシック建築と呼ばれる 7 つの高層建物が目を引きます。テロを警戒し、厳重な警備でした。外国人はパスポートのチェック、手荷物検査をはじめ、バッグの中まで調べられました。日本語はもちろん、英語もほとんど通じない異国の地でジェスチャーを交え、地図とガイドブックを片手に現地ガイドを頼りながら、何とかスタートラインに立つことができました。

スタート時の気温は 6℃。雲一つ無い快晴の青空が広がっていました。マラソンには絶好の気象条件で、記録はネットタイム採用です。ロシア語での放送と共にけたたましい音楽が闘争心を掻き立てます。

午前 9 時 15 分号砲。F ブロックからのスタートで、スタートラインまで約 8 分。一級河川のモスクワ川に沿って、モスクワの中心部や観光スポットを周回する平坦で走りやすいコースでした。高層建物や玉ねぎ形をした屋根の寺院など、次々に移り変わる景色にデジカメを片手に走りました。出場者は約 3 万人ですが、日本人ランナーが極めて少ないこの大会で、幸運にも、ランシャツの「熊本」の文字を見た現地在住の日本人ランナーに途中声を掛けられ、一緒に走りながら案内をしていただきました。また、娘さ



16km 付近 隣の外国人ランナーが撮影



完走後、メダルをかけて友人の塚本さん(右)と

んがモスクワ大学に留学しているという大阪からの日本人ランナーも合流し、ハーフまでは日本人 4 人の集団で走りました。

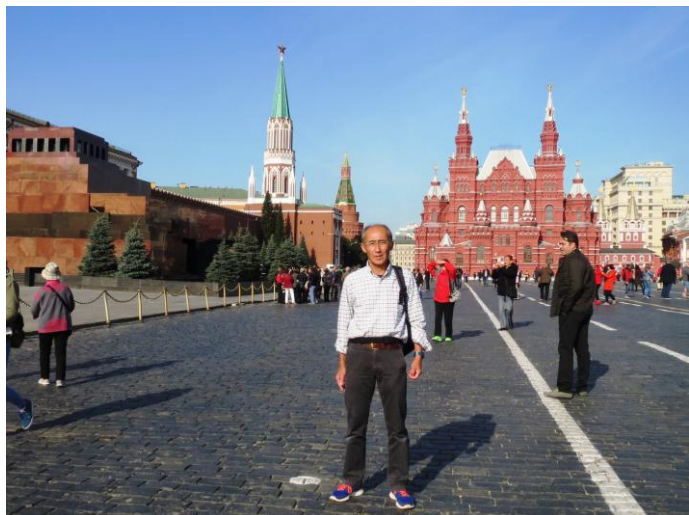
ハーフを過ぎ、25km あたりから上り坂もあり、次第に気温も上昇し、いよいよ自分との闘いであるマラソンの始まりです。次第に 1km= 5 分 30 秒ペースを維持することがきつくなってきました。30km 過ぎからは右ふとももと左足の甲も痛くなり、ペースがどんどん落ちていきました。

やがてコース最大の見どころ(走りどころ)であるモスクワ川のクレムリン城壁沿いの道路を迎えます。日頃は車で大渋滞しているこの道路を走れるのは 1 年のうちで今日のこの大会のこの時間だけとか。数年前、世界陸上モスクワ大会で市民ランナーの星・埼玉県庁の川内優輝選手が日の丸を付けてここを走ったのを思い出します。あこがれのモスクワマラソンを今こうして車一台も通ることなく、ランナーだけが独占して走れることは、この上ない贅沢です。デジカメで写真を撮る余裕もなくなり、景色は自分

の目と心にしっかりと焼き付けて走りました。

沿道からロシア語での熱烈な声援を受けて、何とか 4 時間 05 分 12 秒でフルマラソン 89 回目の完走を果たすことができました。完走メダルを首にかけてもらい、バナナとリンゴをもらって、アルミシートで身体を包み、友人と合流し、荷物受け取り後、着替えを済ませ会場を後にしました。

モスクワマラソンの大会運営はとてもしっかりしていて、これまでに参加した他の海外マラソンと比較しても驚くほどでした。世界的なマラソンブームの中、ロシアでも日本と変わらないほどのマラソン熱を感じました。



赤の広場にて

その後、モスクワ川クルーズをしてモスクワの観光をめいっばい楽しみました。翌日の帰国時間まで、赤の広場やレーニン廟をはじめ、マルクス像のある革命広場など観光地を歩き回り、アルバート通りのスターバックスでコーヒーを飲み一服しました。宇宙飛行士記念博物館では、ガガーリンの宇宙服をはじめソ連時代からの貴重な資料を観ることができました。3泊したホテルは 1720 室もある 24 階建ての超ビッグなホテルでした。

ゴール後、ガイドブックにあるレストランの場所が分からず近くのおばあさんに尋ねると、もっと安くておいしいレストランまで一緒に歩いて案内してくれました。また、地下鉄の乗り場が分からず、地図を広げてうろろしている姿を見て、声をかけてくれる人がたくさんいました。理解しようと互いに一生懸命話すのですが、言葉がほとんど通じないことに困りましたが、最後は何かなるものです。さらには、地下鉄の中で高齢者に席を譲る若者の姿を見たりしました。これまで遠い国と感じていたロシアでしたが、とても親日的であり、今回訪れてそのことを肌で感ずることができました。

モスクワは 2018 年サッカー・ワールドカップに向け、急ピッチで道路工事が進められていました。来年、さらに整備されたモスクワを訪れることができればと思っています。

(熊本県合志市在住／63 歳)

冬のロシアは

Облепиха (オブレピーハ)のお茶で・・・

山下 篤美(JIC ペテルブルグ)

私は基本、コーヒー好きで、どちらかというとお茶よりコーヒーを片手に日々暮らしています。しかし、そんな私も冬になると、必ず飲みたくなるのが、この Облепиха (オブレピーハ) を入れたハーブティー。

日本ではシーベリーとかサジーと呼ばれている、このオレンジ色の実。ビタミンや、ミネラルを豊富に含んでいるということで、スーパー食品として、最近注目されてきているようですが、ご存知でしょうか？

実は 8 年ほど前、初めて真冬のサンクトペテルブルグを訪れたとき、すっかり体調を崩して、ほとんど何も食べられない状態でした。でも、せっかくの観光地、ホテルで寝ているのももったいないと、何とか体を起こして、散策に出かけました。そんな時、立ち寄ったカフェで出会ったのが、この Облепиха (オブレピーハ) 入りの熱いお茶だったのです。

冬至が過ぎて間もない、とても暗いけれど、それゆえにイルミネーションの鮮やかな街。そこに色を添えるような、



Облепиха (オブレピーハ) のオレンジの実が、私に街歩きを楽しむ大きな力を与えてくれたのです。

夏には、ベリージュースとして出しているところもありますし、最近は市販物も出回っています。冷凍の実が売られているので、お茶に入

れるだけでなく、こんなふうにはアイスに混ぜるのも楽しい食べ方です。

この実、ベリーには珍しく、油分があり、薬局ではその抽出した油も扱っていますが、私はもっぱら食べたり、飲んだりする派です。いろんなベリーがあるロシア、ほかのものに比べると、ちょっと癖があるかもしれませんが、是非一度試してみてください。

関西日露交流史研究センター代表の岩佐毅さんから、以下の案内をいただきました。

「リラの花と戦争」(戸泉米子著)

ロシア語版出版についてのご協力のお願い!

大正の頃、ロシア・ウラジオストクの激動の時代に生きた戸泉米子さんという女性がいました。

彼女が渾身の力で著された自伝「リラの花と戦争」は、歴史に翻弄されても決して希望を失わず、生涯日本とロシアの民衆の友好を願い続けた彼女の人生を見事に描き切った名著です。

さて、その著作がこのたび彼女の親友であったゾーヤ・モルグン女史(極東連邦大学助教授)の手で全訳され、ロシアで近々出版(平成 30 年 5 月予定)の運びとなっています。しかし、現在のロシアでの出版事情から出版のための費用を一部負担する必要があります。

そこで、ロシア語版「リラの花と戦争」の出版が成功し、多数のロシアの人々の間で読み継がれ、彼女が生涯思い続けた日露の友好交流の一助となることを願い、今回のロシア語版出版費用協賛金の募金にご協力いただければ幸いです。

なお、「リラの花と戦争」(福井新聞社発行)はすでに絶版となっておりますが、主要図書館の蔵書もしくは電子書籍版(福井新聞社発行)でお読みいただけます。

《呼びかけ団体及び呼びかけ人》

藤本和貴夫(大阪大学名誉教授)、リラの会(福井県)、関西日露交流史研究センター(主宰岩佐毅)、福井県日・ロ親善協会、前田奉司(新潟県知事参与)、秋山賢一郎(長崎日ロ協会)、浅井利春(日本ウラジオストク協会事務局長)、堀江満智(日本ウラジオストク協会理事)、榎本真奈美(神戸市外国語大学講師)、西野肇(株式会社ユーコム、プロデューサー)、吉田知子(株式会社東京堂出版、第一編集部)、山口哲規(山口写真館代表)、浅野真理(日本ユーラシア協会副理事長)

《協賛金の内容》

- 1) 一口 5,000 円(協賛金の目標総額 100 口)
- 2) 振込み締切り: 2018 年 1 月末日
- 3) 送金先: 近畿大阪銀行・野田支店(店番号 303)
普通口座 0051001 名義: 関西日露交流史研究センター
- 4) 問合先: 関西日露交流史研究センター 代表 岩佐毅
電話 06-6459-2747 Fax 06-6459-2748
e-mail: iwasa_osaka@yahoo.co.jp



* JIC のロシア語留学・研修 *

29 年間の実績「だから、JIC のロシア語留学」

JIC ロシア語留学研修は、JIC 国際親善交流センターが日本で最初に旧ソ連・ロシアの諸大学と直接契約により開始した私費留学システムです。この 29 年間で JIC がロシアに送り出した留学生は長期・短期合わせて 3,300 名以上にのぼります。

安心の現地アフターケア

留学中はできる限り自分のことは自分でやっていただくのが語学力上達の道です。しかし、一人ではどうしても解決できない大学との交渉ごとや、緊急事態の際の連絡対応など、留学される皆様をバックアップするために、JIC では各受入機関と緊密な連絡体制を整えています。

ロシア語長期留学 4 月生・募集中



締切間近です
今すぐお申し込みを!

期間: 2018 年 4 月 1 日より 10 ヶ月

締切: 2018 年 1 月 16 日(火)

モスクワ国立大学 827,000 円(授業料 10 ヶ月)

サンクト・ペテルブルグ国立大学 820,000 円(授業料 10 ヶ月)

ウラジオストク極東連邦大学 326,000 円(授業料 10 ヶ月)

※上記の金額以外に別途、寮費、手配料、渡航費用、ビザ代金および取得手数料などがかります。

※極東連邦大学の締め切りは、12 月 22 日になります。

◆ JIC ロシア留学デスク ◆

ロシア留学・旅行のお問合せ・ご相談に応じます。
お気軽にお越しください。

東京事務所 平日 9:30-18:00 03-3355-7294

大阪デスク 平日 9:30-16:00 06-6944-2341

※留学相談は、必ず事前に予約してお越しください

◆◆ 編集後記 ◆◆

▼今号は、恒例の JIC スタッフ新年あいさつを中心に編集しました。「2018 年、これがやりたい!」がお題ですが、それぞれのあいさつから各スタッフの個性を感じていただければと思います▼昨年来、朝鮮半島をめぐる動きが緊迫度を増しています。戦争を煽りたてるような言動を抑制し、韓国・平昌オリンピックが平和裏に開催されることを願わずにはおれません▼人々の行き来と交流を活発化させることこそが平和な環境を整えてくれます。旅行業・観光業の役割はますます重要です。今年も JIC は微力ながら全力で日ロの人的交流、文化的交流に取り組みたいと思います。(F)